題名　：　江戸両国すゞみの圖
絵師　：　歌川豊国(初代)
年代　：　文化年 2 年～文化 11 年(1805～1814 年)
版元　：　山本久兵衛

江戸は両国橋の界隈にて、涼みをする人々を描いた五枚続きの逸品。隅田川に架かる両国橋は川沿いに吹き上げる風が涼しさを運び、涼を求める人々で賑いました。隅田川には屋形船、屋根船、猪牙船など大小さまざまな船が繰り出しています。両国の川開きは、享保十八年（1733 年）5 月 28 日に隅田川において水神祭を取り行うことから始まりました。天保九年(1838 年)に刊行された「東都歳時記」には「5 月 28 日、両国橋の夕涼み、今日より始まり、8 月 28 日に終る。竝に茶店、看せ物、夜店の始にして、今夜より花火をともす。逐夜貴賤群集す」とありますが、少なくとも文化年間には活況を呈していたことがこの図からもわかります。両国広小路と呼ばれる火除地（ひよけち）には、葭簀張り(よしずばり)の茶店が立ち並び道行く人々が休憩がてら茶を一杯飲んだであろうと想像される光景です。猿回し、水売りなど涼み客相手の行商人も前面に描かれていますが、これらは人気役者の似顔になっています。役者絵で名を馳せた歌川豊国(初代)ならではの遊び心となっています。橋の上にも人があふれ、当時の江戸の賑わいと共に気楽に夏を楽しむ雰囲気が感じられます。